

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201628		
法人名	有限会社 ミニヨンプレイス		
事業所名	グループホーム あいの里東倶楽部		
所在地	札幌市北区あいの里3条7丁目5番7号		
自己評価作成日	平成26年12月3日	評価結果市町村受理日	平成27年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170201628-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあいの里東倶楽部は普通の家庭であり続けることを目指しています。ホームの理念は「ありのまま受け入れる家」・「ひとり一人を大切に作る家」・「支え合う寄り添う居心地のいい家」・「家族が安心してまかせていただける家」・「自分が住みたいと思う家」・「地域の皆様に理解支援をいただける家」であり、ホームを開設して12年目となった現在も脈々と受け継がれています。法人の代表者・役員がホームの管理者・ケアマネを行っていますので、意思決定が迅速になされ、隙間の無い連続した責任のあるケアサービスの提供が実現されています。また、ホームで体験授業を受けた子供達の中から、介護の道を歩もうとしている学生さんが出てきており、近隣の小学校や中学校との交流に感謝し、地域の皆様のご理解とご支援をいただきながら、大家族で生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あいの里東倶楽部」は、一般住宅を改築した建物で、JRあいの里公園駅やバス停から徒歩数分の、近くに小中学校や公園などがある静かな住宅地に立地している。建物内は、既存の住宅を活かしながら取締役が建築士としての経験を活かして、各利用者が自分の家として落ち着いて過ごせるように改築している。玄関や廊下、居間には多くの絵画や季節感のある装飾がさりげなく飾られており、家庭的な温もりが感じられる。運営推進会議は、利用開始時に家族に会議の意義を説明して参加を依頼したり、年間の開催日時を決めるなど、多くの家族の参加に繋がるように工夫して開催している。散歩の機会に近隣住民から声をかけて頂いたり、小中学校の校長先生が着任時に挨拶に訪れるなど、地域に根差した事業所となっている。馴染みの人や場との関係継続にも力をいれ、利用開始時に家族に協力を依頼して、受診の他、馴染みの美容室や買い物なども継続して支援が行われている。メールを活用して家族とやり取りをし、月2～3回は写真付きで利用者の近況を伝えている。各利用者の変化や職員の気がすぐに反映できるように、新たに「介護計画実施状況確認テーブル」用紙を作成して介護計画の見直しに活用するなど、工夫した取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつでも見られる場所に掲示されており、常に理念を意識した行動を身に付けられるようになっている。	6項目から成る理念の中に「地域の皆様に理解支援をいただける家」という地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。理念は玄関に掲示し、各職員が業務の中で意識しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣も高齢者世帯が多く、困っているのを見かけた場合にお手伝いをしたり、特に冬期間は除排雪協力で近隣の皆様と交流させていただいている。	散歩の時に近隣の方と挨拶を交わしたり、町内会の収穫祭に利用者も参加している。民生委員や以前の町内会副会長など、地域の方が来訪する機会もある。小中学校の校長先生が着任の挨拶に来訪したり、運動会などに招待を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のお年寄りとの接し方で悩んでいるご家族が見学にいらした場合は、実際のホームでの対応をご覧頂き、参考にされているようである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ケアに関する活動の報告を行い、参加者の方から様々なご意見やご指導をいただくとともに、どのようにそれを取り込んでいくべきかミーティングでスタッフを交えて議論を行っている。	年間の開催日時を決め、1名～3名程の家族の参加を得て、事業所からの報告や災害時の協力体制の確認などを行っている。地域包括支援センター職員から、成年後見人制度についての情報を得ている。議事録も全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市介護保険課の担当者とは、通常はメールにて報告や指導を受けており、今年3月の実地指導においても1項目の指摘で終了することができた。	市役所の担当者とは、主にメールでやり取りをして連携を深めている。区役所の生活保護課の担当者が来訪した時は、利用者の様子を話しながら情報交換をしている。申請書類なども、殆ど郵送で手続きをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止対象の具体的な行為を含む説明は、スタッフが常に見られる場所に掲示されており、常に正しく理解出来るようになっている。玄関は夜間就寝時以外は施錠を行わないようになっている。	身体拘束ゼロをめざして、「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を職員の目につく所に掲示し、内部研修を行っている。利用者が不穏になった時などは、拘束に繋がらないような対応を全職員で検討している。他者が誤解を招くような、不適切な声かけをしないように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待防止教育を行い、事例シートをもとに虐待防止への勉強を行っている。日中は常に管理者かケアマネがホームに常駐しているため、自然と抑止力となっている。		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年、1名の入居お年寄り(生活保護受給者)に成年後見人がついた。嚙唾の身内の方しかいないため、今後心配される入院時の対応について協議が行えた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には疑問が残らないように説明を行っている。特に退所をお願いする要件については、その判断基準や精算方法を詳細に説明している。そのため退所される時及びその後も良好な関係が維持されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族の要望は運営推進会議で外部に発信され、メール等でも常時受付けている。可能な限りご家族等の要望をケアに反映させるように心懸けている。	家族の来訪時やメールなどで意見や要望を聞き、必要なことは申し送りで伝えたり、ホワイトボードに記入している。代表者や取締役が家族の相談に乗ることもある。月に2～3回、利用者の近況を写真と共にメールで家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや不定期のスタッフ懇親会では、様々な提案が出され議論の上、活動に反映させている。	代表者や取締役は、日々のケアや業務の中で各職員と話をしている。失禁時の対応や利用者が落ち着く支援方法など、職員からの提案を活かして全職員で検討しながらケアに反映させている。取締役は、必要に応じて個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、スタッフとの話し合いで、正社員の給与水準を引き上げ、手当も新設して勤務実績に見合うものとした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度より積極的に外部の研修を受ける機会を設けた。スタッフも時間の都合を付けながら意欲的に参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市北区グループホーム管理者連絡会に参加して、会の主催する研修会等で、他のホームのスタッフと交流する機会を設けている。管理者同士の相互訪問は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より事前にご本人の状況を伺い、入居当初は大変不安を抱きがちなので、落ち着くまでの数日間は重点的に寄り添ってご本人の意向や要望を聞き出すことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に感じていたり、困っていることを解消すべく、入居当初は頻繁にご本人の様子をメールにて伝え、画像を添付することで、より安心を抱いていただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のその時の関係や状況を聞き取りし、今後の支援について提案しながら必要なサービスを利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと入居者の関係は可能な限り家族のような関係となるように、またその際はご本人の納得感が感じられる関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係に配慮しつつ、協力してご本人を支援する関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者やご家族により、馴染みの関係の維持を要望される場合は、ご本人が混乱をされないようさりげなく支援をしている。	家族の協力で、馴染みの美容室や買い物に出かけている。近所に住んでいた地方の知人が訪ねて来たこともある。知人から電話が来た時などは、家族に確認しながら取り次ぎ、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士はスタッフを介して関係を構築している。年齢や性格、相性を見極めて、されげなく良い関係が継続できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に希望を伺い、それに応じた相談や支援を適時行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から暮らしの希望を尋ねて試行錯誤を重ねるが、意思表示が困難な場合などは都度ご本人に是非を示していただけるよう努めている。	仕草や会話の中から思いや意向を把握している。利用開始時に、家族から生活歴などの基本情報を可能な限り聴き取り、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のこれまでの暮らしについてご家族から可能な限り聞き出し、ご本人との会話で得られた生活履歴等をご家族に確認するなど、ご本人の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ご本人の活動状況、睡眠時間、排泄状況やできていることをスタッフが把握しながら共有し支援しており、症状の変化を早く察知できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネとスタッフでご本人の状況を話し合い、計画の原案を作成しご本人・ご家族に提示してご意見をいただきながら、より現況に即した介護計画を作るよう努めている。	全職員で記入している「介護計画実施状況確認テーブル」に沿って状態に応じて検討し、変化がなければ6か月毎に介護計画を見直している。今後、日々の記録の中で、介護計画に連動した部分が見えるような記録方法も検討したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアの記録には、できていたこと、できなくなってしまったこと、注意を払わなければならないこと等を的確に記録し、朝のミーティング、夜勤者への引継でスタッフに共有されて実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の年代や状況が変化する中で、ニーズの変化に対応した家庭の雰囲気を作り出す工夫をしている。多機能化ではなく柔軟対応化すべく取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とは良好な関係を維持しており、民生委員や近隣の皆様からお声をかけていただいたり、差し入れを頂戴したりしている。近隣小学校や中学校から行事参加のお誘いがきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医との関係継続を支援している。またホームのかかりつけ医とも開所時から良好な関係であり、いつでも受診が可能なように支援している。	家族が受診に同行する場合は、口頭で情報を交換している。事業所で受診支援する場合は、利用者の状況を書面にして主治医に伝えている。主治医に提出した書類の写しを受診日毎に整理し、受診結果は介護記録に記入している。	

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師ではなく、かかりつけ医が入居者の変化に対応して往診や相談の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかにご本人の状況等の情報を病院側に伝えられるように努めている。また入院後も適宜にご本人と面会し、看護師より症状を伺い、退院後のご本人への対応について、ご家族と早めに相談をしながら可能な支援を行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にご家族等にホームの「重度化した場合における対応及び看取りに関わる指針」を説明し、ご理解のもと契約を行っている。	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を作成して利用開始時に説明し、医療行為が常時必要になった時は、事業所での対応が難しい旨を伝えている。利用者の身体状況に応じて家族と方針を話し合い、対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤勤務があるスタッフは普通救命講習を受講して入居者の急変に対応可能な体制を整えている。また、日頃より症状の変化が見受けられそうな方を対象に処置のシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上避難訓練や消火訓練等を行って、入居者とスタッフの生命を守ることを身につけるよう努め、町内会を通じて災害時の援助等を依頼している。	今年度は、夜間を想定した火災避難訓練を2回実施しているが、消防署の協力は得られていない。事業所としての方針を明確にし、地域との協力体制を確立している。災害備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練も計画的に受講を進めている。	年間1回は、消防署の協力の下に避難訓練が実施されるように期待したい。また、火災以外の地震などを想定して、全職員でケア別の対応について確認するように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族のような関係を損なうこと無く、プライバシーに配慮し、人生の先輩としてリスペクトすることを基本とした会話や対応を心懸けている。	利用者への呼びかけは、下の名前に「さん」付けとし、親しみを込めて話しかけている。居間で見守りしながら記録を行う時は個人情報に注意している。書類関係は適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いは可能な限り満足して頂けるよう心懸け、ご本人の状況に合わせて自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の状況に合わせて、活発化できるメニューを相談しながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や色合い、流行を配慮したご本人らしい着こなしが出来るよう、相談しながら支援してる。		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理師資格者が中心で、その日感や皆さんの様子に合わせて食事をつくり、ご本人の力に合わせて食後の片付けを協力しながら行っている。	食材を見て当日の食事を作り、栄養バランスにも配慮している。行事に「ちらし寿司」などを提供し、誕生日はケーキでお祝いしている。畑で採れた野菜類を調理して食卓に乗せたり、食事中は家族のように会話を交わしながら職員も共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はご本人の状況に合わせて、摂取量、摂取熱量を含めて栄養バランスが適度となるように提供されており、摂取水分量は過不足にならないよう記録されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアは最大限ご本人の力で行うよう支援し、その状況により清潔を維持するための確認と介助を行うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは入居者各位の排泄パターンやサインを理解して、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。	布パンツとパットで過ごし、自分で排泄が出来る方もいる。夜間も目覚めたタイミングに声をかけたり、間隔を見てトイレに誘導している。排泄を近くで確認し、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつで繊維質や乳酸菌など便秘予防に効果的なものを摂取するように心懸けるとともに、主治医と相談しながら便秘防止の医療的指示を受け、対応支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を考慮し、体調変化に対応できる午前中に入浴を行っており、ご本人の納得の上入浴を楽しんでいただいている。	水曜日と日曜日を入浴日とし、午前中に週2回の入浴を支援している。夏場にはシャワー浴や2回以上入ることもある。体調などの様子を見て順番を決めている。入浴を嫌がる時は遊びを入れて誘導したり、声かけの工夫で入浴が実施できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣や要望に応じて安心してお昼寝や休憩を取れるようにさりげなく支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは入居者の薬の目的を基本的な部分は理解しており、特に重要性があるものについては管理者より注意事項が指示され、症状変化の把握とともにご本人を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の力に応じて、お手伝いなどのやりがいを見つけていただき、役割を得ながら張り合いを持って一日を過ごせるように支援している。		

グループホーム あいの里東倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは、ご本人と相談しながら散歩に出かけるよう努め、ご家族とともにドライブに出かけたり、食事に出かけられるようご本人とご家族を支援している。	近くの「あいの里公園」までの散歩を目標に、利用者の状態に合わせて支援している。受診の帰りに「モエレ沼公園」を通して景色を眺めてくることもある。家族の協力で夕食や買い物に出かけている。庭の桜の花や紅葉を見て季節感を味わい、ピクニック気分を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いの金銭管理を依頼されているので、ご家族やご本人の希望により適切に使われていくように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の状況や希望によって、できる限りの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はいままで過ごしていた自宅と大きく変わっていないので、混乱や不穏を招くことはなくすんなりと受け入れられている。普通の家庭の雰囲気を保てるよう生活感のある心地よい居住空間を創っている。	住宅環境を活かして改造し、トイレ・浴室の段差や階段の昇降は身体機能低下の防止になっている。車椅子用のトイレを使いやすく増築している。玄関には雪だるまの造形や大きな絵画が飾っており、居間にはクリスマス装飾や観葉植物が置かれていて家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ったり、寝そべったりすることができる。置の小上がりもあり正座も雑魚寝もでき、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、ご本人の状況を配慮しながらご本人が使い慣れたものを自室に置いていただくようお願いし、少しでも住み慣れた空間を再現できるよう工夫している。	居室にはクローゼットや押入れがあり、物が整頓されており、すっきりしている。時計を設置し、壁にはお誕生日カードなどが飾っており、落ち着いて過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段、トイレには手摺りを設置し、自力で歩行できるように配慮され、床の段差は多少はあるが、そのバリアを乗り越えようとすることで活性化が図られ、安全に留意された環境になるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あいの里東倶楽部

作成日：平成 27年 1月 6日

市町村受理日：平成 27年 1月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年1回は、消防署の協力の下に避難訓練が実施されるように期待したい。また、火災以外の地震などを想定して、全職員でケア別の対応について確認するように期待したい。	年に1回は可能な限り消防署の協力を得て消防訓練等を実施するようにしたい。また、自然災害に備えてケア別の対応を順次訓練に組み込んでいくようにしたい。	1. 所轄署との連絡を密にして対応する 2. ケア別の対応計画書を作成して訓練を実施する	2016. 3. 31まで
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。